

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

美術・工芸・デザイン専門教育の一層の充実を図り、造形文化の発展に貢献する日本一の専門美術高等学校

- 1 造形活動を通じて、造形文化の発展に寄与する「確かな学力」「表現力・プロデュース力」「企画・発信力」の育成
- 2 将来、美術・工芸・デザインの第一線で活躍し、芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルの育成
- 3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校として、造形教育の充実・振興に貢献し、「芸術・文化」の発展に寄与する

2 中期的目標

1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成

(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成に取り組む。

ア 1年次より、全員がタブレット端末(BYOD)のポートフォリオ活用等による系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力を向上させる。また、「学校経営推進費」採択により設置するプロジェクタ(全HR教室)と連動させることで、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」を飛躍的に向上させる。「学習動画」を活用し、予習・復習の自学自習の習慣を身に付けさせることで、苦手教科(数学・理科)の克服を図る。

イ 造形教育における圧倒的な知識・実技力を身に付けさせるとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業の拡充を図る。

ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通して、主体的・対話的で深い学びを充実させる。また、読書活動の促進により、言語活動を充実させる。

エ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた造形文化への理解を深める。また、教員の指導力向上のため校内研修、海外研修を充実する。

※ 学校教育自己診断において「授業内容に興味・関心をもつことができる。」の肯定的回答(平成29年度78%、平成30年度84%、令和元年度80%)を、令和4年度には90%に近づける。

※ 「発信力」の育成について、「学校経営推進費」採択により設置するプロジェクタ(全HR教室)の活用も含め、卒業時にはすべての領域の生徒がICT機器を活用して、プレゼンテーションできる力を身に付け、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、互いに尊重し合えることができる力を育成する。

タブレット端末(BYOD)、「学校経営推進費」採択により設置するプロジェクタにより、すべての授業(教科・科目)でICT活用を促進していく。

2 美術・工芸・デザインの第一線で活躍できる専門的職業人の育成

(1) 将来、芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルを育成する。

ア 高大連携、作家、企業、芸術団体との連携等の一層の充実を図るとともに、大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。

イ 1年次から進路ガイダンスを系統的に実施し、将来を見据えた具体的な進路目標の実現に至る道筋を明確にし、生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。進路指導の指標として、自から選択した進路希望の達成・満足度等を「進路情報等に関するアンケート調査(SNS)」にて検証し、進路指導の充実を図る。各年次に行うアンケート調査の「進路指導等に関する内容」において、満足度である肯定的回答(平成29年度89%、平成30年度92%、令和元年度93%)について、90%以上を維持していく。

また、進路への不安や学校生活での相談等に対する教育相談体制を充実していく。

ウ 国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。国公立大学10名程度を含む4年生大学進学者数100名程度を維持していく。

※ 造形活動に意欲的に取り組ませるために、部活動への積極的な加入を促進し、複数部への加入による部活動加入率100%以上を維持していく。また、「高校展」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品を維持していく。令和4年度においても現在の水準(美術の大阪府代表)を維持する。

※ 部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に実施する。

3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割

(1) 府立学校唯一の専門美術高校、日本一の専門美術高校として、日本のセンター校としての役割を果たしていく

ア 令和2年度より、「全国美術高等学校協議会本部事務局校」となり、日本の専門美術高校の中心として、教育活動や美術大学との連携に役割を果たしていく。近畿・全国に向けて、情報を発信する。

イ 地域・外部連携事業、ボランティア活動等を通して、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さを理解させるとともに、教育活動の拡充を図る。

ウ 日本一の専門美術高校にふさわしい教育活動を展開するため、展示・展覧、施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。

※ 校内展示や美術館鑑賞により、常に優れた作品に触れる機会を設ける。また、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流を推進する。令和4年度においても海外、国内の作品に触れる機会を、海外研修(イタリア・台湾)も含め5回以上実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>「生徒回答」では、「設問内容」の9割で、肯定的回答(「よくあてはまる」「ややあてはまる」)が高い評価(80%~90%)であった。</p> <p>前年比で大きく向上(5%以上)したのは、「5 先生は、学校生活の問題を見逃さずに対応してくれる。(76%)」「16 担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生がいる。(73%)」の2項目で、リニューアルした「カウンセリング室」により、相談しやすい「場」がより身近になったことの効果が表れている。</p> <p>大きく低下(5%以上)したのは、「7 授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。(83%)」「17 学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。(79%)」「19 地域(住之江区)や大学、芸術団体との連携の機会がある。(66%)」「20 国際感覚を養う国際交流の機会がある。(57%)」の4項目で、対話型の授業や集団行動ができないことなど、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響によるもの</p>	<p>第1回(新型コロナウイルスの影響により、令和2年8月7日(金)書面開催・確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業再開より、学校・生徒達の感染防止への意識の高さが、現在も感染者0につながっているのだと思う。 ・令和2年度の取組について、学校が新型コロナウイルスの影響を受けているにもかかわらず、生徒の安全で安心を保障するために熱心に知恵を出し合い取り組んでいることが分った。生徒指導は、教師全員で行うものであり、指導部を支援部としたことに、好感を持った。生徒が必要とするサポートがどのようなものか、情報収集しつつ、ケアしていくことで、一人ひとりの自立を促していくことができるのではないかとと思う。 <p>例年通りの研修や行事ができないことは、本当に残念であり、生徒たちには、かわいそうな状況である。その代わりに何か、記憶に残るような出来事があれば…と思う。ICT(タブレット)活用によるオンライン授業の取り組みなども進めてほしい。少しずつコンテンツ(デジタル)を増やしていくなどの課題もあるのではないかと。</p>

府立港南造形高等学校

で、特に、地域や海外との交流はほぼできなかったため、低い値となったと思われる。

「保護者回答」でも、「設問内容」の9割で、肯定的回答（「よくあてはまる」「ややあてはまる」）が高い評価（80%～90%）であった。

前年比で大きく向上（5%以上）したものは、「10 学校は、子どもに生命を大切にすることを心や社会のルールを守る態度を養おうとしている。（86%）」であった。

大きく低下（5%以上）したのは、「10 学校は、子どもに生命を大切にすることを心や社会のルールを守る態度を養おうとしている。（81%）」「13 体育祭や文化祭などの学校行事は、活発に行われている。（80%）」「17 学校は、子どもの国際感覚を養うような国際交流行事を実施している。（46%）」で、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響により、全体集会や行事が減ったためであり、特に、海外との交流はほぼできなかったため、低い値となったと思われる。

第2回（令和2年11月27日（金））

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、各分掌、学年からの報告がこれまでと全く様変わりしており、進路も大学入試改革と重なっており、大変な状況にあることがよくわかった。
- ・学校では、生徒のことを良く考えられている。子どもは幸せだと感じた。
- ・苦労は中学校でも同じ。修学旅行の行先で発熱した場合、連れて帰れない。キャンセル料は？しんどい時こそ、美術の力の見せ所。是非とも造形の力を期待している。面倒見の良い学校であってほしい。港南造形には、来たい子どもが来ている。
- ・臨機応変に対応出来ている。大学はリモートで大変。後期になり、ようやく対面の授業が出来るようになった。
- ・PTA活動も出来ない。倉敷への「修学旅行①」、子どもは楽しかったようだ。進路の不安がある。例年のように出来ない中でも、進路行事開催は、ありがたい。
- ・臨時休校（休業）による授業日数減、特に授業の内容等、質的なものをいかに補うのか？
⇒授業日数については、「港南展」や「芸文祭」もあり、すでに年度末まで詰まっているので、質的・内容的なもので工夫している。年間の授業日数を確保するために、夏季休業や冬季休業を大幅に短縮している。1学期の後半には、臨時休校（休業）になることも想定して、造形科目中心ウイークを組んだ。今後も臨機応変に対応していく。
- ・造形の活動があつてこそ、子どもは何かの刺激で変わるのでは？
⇒造形の活動は、校内では確実に減っている。マスクをして「しゃべるな」の中で、指導は難しい。作品を見せる、色や形で伝えていく、「高校展」がなくなったのは痛かった。「芸文祭」は必ずやり遂げる。
- ・進路指導、先輩が行った学校、先輩が帰ってきて、そこに行きたいというようなことで、進路を選ぶのでは？ 特に2年生はどうか？
⇒3年生は、2年生までにオープンキャンパス等に参加していたので、特に問題なかった。1、2年生はバスツアーも出来ていない。卒業生にも会っていない。生徒に呼び掛けているが、心配なところ。年明けの卒業制作展のツアーを実施していきたい。
- ・第3回に向けて、評価が必要であるので、評価の対象になる教育活動を展開していただいたい。

第3回（令和3年3月12日（金））リモート開催

- ・資料から、学校は、スローガンにあるように、“今できることを、無理のない範囲で”のとおり、制限のある中でよく努力されている。
苦労されたのが生徒の健康管理、環境整備であったのでは。また、ICTの整備が進んでいたことがコロナ禍で役に立ったのでは。
教務部は、大変だったと思う。柔軟に対応して苦労されたと思う。熱中症対策、夏季の私服登校も良好なようなので、今後も進めてもらいたい。人権については、SNSの取り組みを続けていってもらいたい。
学校説明会などが十分に出来なかったとのことであったが、入試の定員が超えてよかった。
- ・学校は、“やることいっぱい、先生方大忙し”であるが、結果が出ている。
この時節柄希望を失う子ども（大人）がいる。希望通りいかなかった子ども（大人）に、あったかいものを残してあげるような高校生活が送れればと思う。心が、ほかほかとなれば。
- ・コロナ禍で大変な中で、展覧会も出来た。GIGAスクール構想に向け、小中学校で慣れた子どもが高校に上がって来るので、対応が必要。コロナの状況だからこそ、オンラインでも出来るけど、やはり対面でしか出来ないことが明確になった。
- ・先生、大人の姿を見てこどもが大きくなる。“今できることを、無理のない範囲で”どおり、今後も無理せず、学校運営を続けていってほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成	<p>(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成に取り組む。</p> <p>ア 学力診断テストの活用等を通して、基礎学力の確実な定着を図る。</p> <p>イ 実技力の向上と ICT 機器の活用</p> <p>ウ 言語活動の充実</p> <p>エ 美術文化への理解</p>	<p>(1)</p> <p>ア 造形表現力の向上には基礎学力を向上させることが不可欠であり、家庭学習の強化も必要。難易度の異なる学力診断テスト（学力生活実態調査）、学習強化週間等を通じて、自学自習の習慣を身に付けさせる。</p> <p>イ 造形活動に必要な「圧倒的な実技力」を身に付けさせるため、実技講習の充実を図るとともに、調べ学習等を積極的に採り入れる。タブレット端末(BYOD)、「学校経営推進費」採択により設置するプロジェクタ(全 HR 教室)の活用を中心に ICT 機器活用の促進を図り、「企画力・発信力」の向上を図る。「学校へ行くのが楽しい。」の評価を向上させる。</p> <p>ウ 読書活動等の促進により、言語活動を充実させる。生徒間の意見交換やプレゼンテーションの機会を拡充する。</p> <p>エ 国立国際美術館等の協力を得て、現代の作品、世界の作品、伝統工芸に触れる機会を拡充し、美術・文化への理解を深める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断における「授業内容に興味・関心をもつことができている。」を85%に近づける。(令和元年度は80%)</p> <p>イ・1・2年生は、授業の ICT 機器活用100%。3年生は、半数以上の授業での活用をめざす。学校教育自己診断における「学校へ行くのが楽しい。」を85%に近づける。(令和元年度は80%)</p> <p>ウ・学校教育自己診断における発表機会の肯定的回答85%を維持する。(令和元年度は88%)</p> <p>エ・海外、国内の作品に触れる機会を増やす。(令和元年度は15回以上)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・新型コロナウイルス感染症の影響による休校時に生徒 BYOD タブレットの活用が各教科の授業動画視聴、オンライン HR 等、校外での活用が広がり、自学自習の意識が向上した。学校教育自己診断における「授業内容に興味・関心をもつことができている。」を84%に向上した。(○)</p> <p>イ・1・2年生は全員がタブレット端末(BYOD)を持ち、「学校経営推進費」により設置するプロジェクタとの効果的な活用を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、プロジェクタの設置が大幅に遅れており(3設置予定)、プロジェクタとの併用はできていない。しかしながら、教育センターの「パッケージ研修」と連携して、全ての教科で ICT 活用(タブレット活用)を進めることができた。学校教育自己診断における「学校へ行くのが楽しい。」は、80%で、変化なく、向上しなかった。(△)</p> <p>ウ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、対話型・発表型の授業が十分にできなかった。学校教育自己診断における「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」は、83%に下がった。(△)</p> <p>エ・作品に触れる機会も、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、1年生全員の「大塚国際美術館」での鑑賞、2年生「美学美術史演習」選択生の「国立国際美術館」「兵庫県立近代美術館」での鑑賞、修学旅行での「大原美術館」等、6回しか実施できなかった。(ー)</p>

府立港南造形高等学校

<p>2 美術・工芸・デザインの第一線で活躍できる専門的職業人の育成</p>	<p>(1) 芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェSSIONナルを育成する。</p> <p>ア 高大連携等の充実を図るとともに、大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。</p> <p>イ 生徒一人ひとりに応じた適切な進路指導を組織的に行う。</p> <p>ウ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施する。「高校展」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品を維持していく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 高大連携等の充実、大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。</p> <p>イ 生徒一人ひとりに応じた適切な進路指導を組織的に行う。進路実現に向けた進路指導体制を強化する。教育相談体制を刷新し、教育相談・支援の充実を図る。</p> <p>ウ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施する。進路指導の成果を多角的に把握し、生徒の希望の進路実現につなげる。「高校展」や「芸文祭」等の高校生向け公募展はもとより、大学・専門学校や企業などの外部団体が主催するコンクールに積極的に出品・参加し、意欲・実技力の向上を図る。部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・大阪市住之江区との連携も継続していく。「大和川陶板ロード」も拡充していく。</p> <p>イ・学校教育自己診断における「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」、90%以上を維持する。(平成29年度89%、平成30年度92%、令和元年度93%)</p> <p>・教育相談体制を刷新し、SCと連携した支援・相談体制の拡充と、新たな「カウンセリング室」の整備を行う。学校教育自己診断における「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生がいる」を、70%以上にする。(令和元年度は65%)</p> <p>ウ・学校教育自己診断における「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」を、90%以上にする。(令和元年度は87%)</p> <p>・「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に達成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・高大連携、大阪市住之江区を中心とする地域連携は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ほぼできなかった。ただし、ギネス記録をめざしている「大和川陶板ロード」については、予定通り拡充できた。(△)</p> <p>イ・新型コロナウイルス感染症の影響下であるが故に、より一層のきめ細かな指導を行った。進路行事、指導回数は減ったものの、学校教育自己診断における「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」は、91%で、90%以上を維持した。(○)</p> <p>・「カウンセリング室」のリニューアルより、相談しやすい、日常的に相談できる「立ち寄りやすい部屋」ができた。7名の担当者の担当日を明示する工夫などもあり、学校教育自己診断における「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生がいる」は、73%に、大幅に向上した。(◎)</p> <p>ウ・新型コロナウイルス感染症の影響により「高校展」は開催されなかったが、独自の取組み「港南祭」(文化発表)を開催した。学校教育自己診断における「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」は、90%以上にはならなかったが、89%に向上した。(○)</p> <p>・「定時退庁日」、「ノークラブディ」は達成し、さらに、生徒・教員とも、展覧会前以外は、ほぼ午後6時まで、退校している。(○)</p>
--	--	---	--	--

府立港南造形高等学校

<p>3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割</p>	<p>(1) 府立学校唯一の専門美術高校、日本一の専門美術高校として、日本のセンター校としての役割を果たしていく</p> <p>ア 教育活動や美術大学との連携にセンター校としての役割を果たし、近畿・全国に向けて、情報を発信する。</p> <p>イ 地域・外部連携事業、ボランティア活動等を通して、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さを理解させるとともに、教育活動の拡充を図る。</p> <p>ウ 展示・展覧、施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。 国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 美術専門学科設置校としての教育資源を活かした活動を全国に向けて発信し、日本の美術教育の振興を図るとともに、校内・外の展示を充実する。 全国美術高等学校協議会本部事務局校として、全国大会（秋田大会または代替の web 大会）の運営を行うとともに、全国の美術専門高校の支援を行う。</p> <p>イ 本校の特色である地域・外部連携事業、ボランティア活動等を通して、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さ、達成感を与える。</p> <p>ウ 専門施設設備の維持管理、更新と充実により、生徒の造形活動の伸長につなげる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校 HP の更新を維持し、満足度を向上する。教育情報の発信、保護者評価を 85% に近づける。（令和元年度は 80%） 全国美術高等学校協議会秋田大会または代替の web 大会を円滑に運営する。</p> <p>イ・地域・外部連携事業の指標となる学校教育自己診断における「この学校には、他の学校にない特色がある。」、98% を維持していく。（令和元年度は 98%）</p> <p>ウ・「港南展（卒業制作展）」を始めとする展示・展覧を継続していくために、計画的に施設設備の維持更新を行い、造形活動の環境改善を進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・新型コロナウイルス感染症対応の情報発信では、学校 HP、公式 Twitter を十分に活用した。学校教育自己診断における保護者回答「学校は、教育情報について、情報提供の努力をしている。」は、84% に向上し、85% に近づいた。（○） 全国大会（秋田大会の代替）「リモート大阪大会」を、短期間に準備し開催した。「全国専門美術高校協議会本部事務局」としての十分以上の役割を果たした。（◎）</p> <p>イ・新型コロナウイルス感染症の影響により、地域・外部連携は、ほぼ出来なかったが、校内でのボランティア活動などは実施できており、学校教育自己診断における「この学校には、他の学校にない特色がある。」は、生徒・保護者とも 99% に上昇した。 「高校展」は中止となったが、「芸文祭」の出品者数は、例年同様を維持した。「芸文祭」206 名（入選 132 名）。受賞数は府内一。近畿・全国選抜出品数も府内一であり、選抜作品はすべて本校生徒の作品となった。 大学主催のコンクールでは、大阪成蹊大学の「大阪成蹊大賞」「学校賞」「金賞」等、多数受賞した。大阪芸術大学「ダ・ヴィンチコンテスト」でも、「ダ・ヴィンチ大賞」「学部長賞」等、多数受賞し、全国で最多数の入賞・入選であった。関西の美大主催の 2 つの大きな全国コンクールの両方で「大賞」を受賞したのは快挙である。（◎）</p> <p>ウ・保護者が学校に来る機会が懇談会以外にほぼなかったため、学校施設等の状況を確認することができなかった。学校教育自己診断における保護者回答「学校の施設や設備については満足している。」は、88% から 85% に低下したが、数値の低下は新型コロナウイルス感染症の影響による来校機会減によるもの。設備の充実に向けては、推進費を獲得して前進した。（○）</p> <p>国際交流は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ほぼできておらず、姉妹校の「臺中第一高級中等学校」の 6 月の来校も中止となり、メールの交流のみであった。 海外研修（イタリア研修、令和 3 年 1 月予定）も中止した。（△）</p>
--	---	---	---	--